

「道徳科」で留意すべき指導の重点ポイントを考える

道徳科授業では、

道徳教材という共通の道徳的追体験を基に、主体的かつ対話的に深く道徳的価値を検討し、その価値実現に向けて必要とされる資質・能力を培うことを目指す。

つまり、道徳科授業で大切なのは、

- ①道徳科授業では価値理解のみに留まらず、子供の主体的な価値観創造が実現できる時間にする。
- ②学習指導要領の内容項目を教えるのではなく、その先にある個別な道徳課題への気づきを促すようにする。
- ③子供が「明日の自分を体現するジェネリック・スキル（汎用的能力）」も同時に育てていくようにする。
- ④「頭が働き、心が動く」問題追求型道徳科授業を意識し、主題を貫く「共通追求課題」をしっかりと設定する。

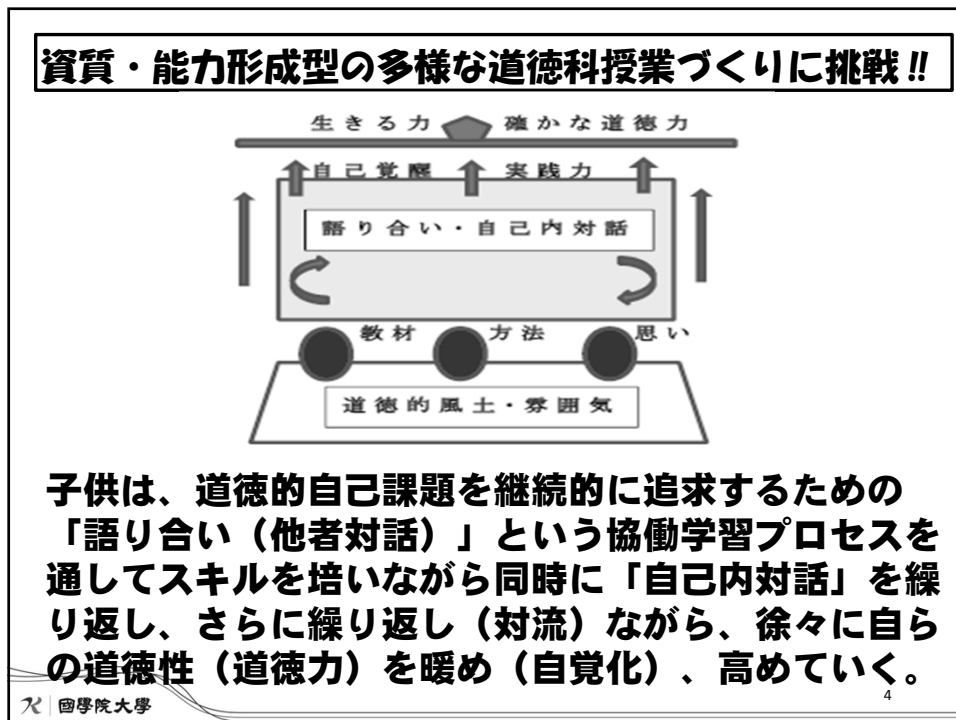
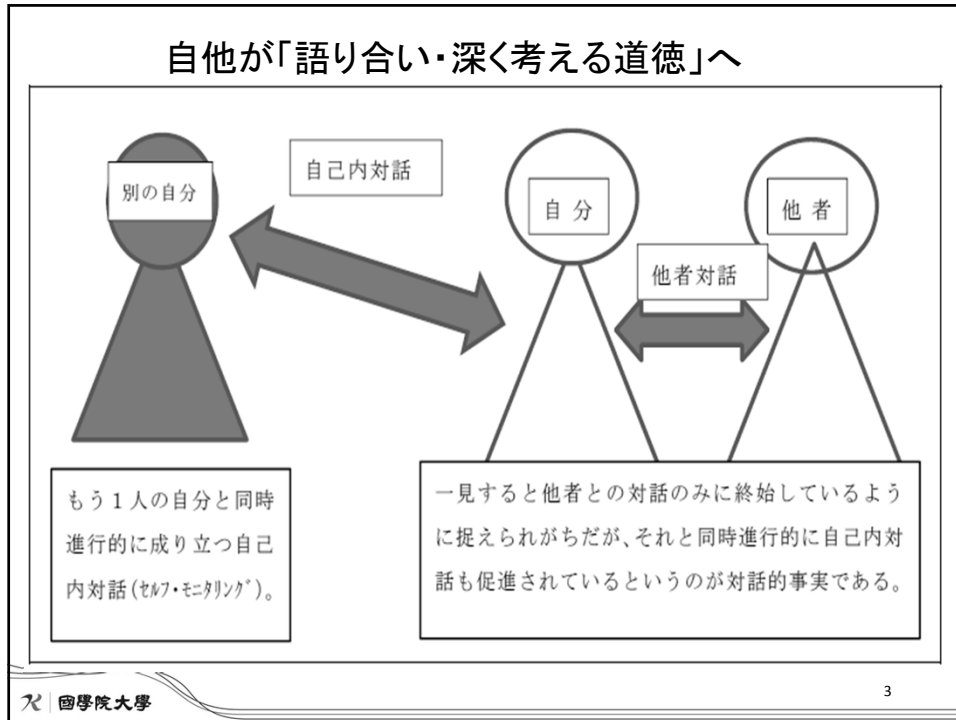
★ポイント：共通解の獲得から納得解の形成へ

道徳科で育むべき道徳的な学習能力 (generic skills: 日常的な学びの中で活用される汎用的スキル) とは？

• 例えば、

- ①円滑な社会生活を送る上で必要な道徳的知識・理解力
- ②日常生活の中での道徳的な課題発見力
- ③道徳的な問題を実践的に解決する問題解決能力
- ④道徳的に物事を考える思考・判断力・情報活用能力
- ⑤道徳的なものの見方・感じ方・考え方の表現力
- ⑥道徳的課題解決に向けてのメタ認知力

しかし、それ以上に大切な資質は、  
他者を理解し、尊重しながら共に学ぼうとする意欲である。



《道徳教材「茂の悩み」(中学校B(9)「相互理解・寛容」)のあらすじ》  
 ♥先輩たちが引退した後のバスケット部キャプテンになった茂は、新人戦でどうしても成績を残したいと同学年で技量の劣る正夫をレギュラーから外すことを考える、しかし、仲間の稔の励ましを受けながら真摯に自主練習に励む正夫の姿を目にし、その選択に迷いが生ずる。同学年の正夫にレギュラーから外れてくれと言えない茂は、1年生の雄一郎を推す副キャプテンの浩二や後輩たちからの信頼すら失いつつある。どの立場を尊重すればよいのか、思い悩む茂である。

多面的・多角的に考えることは？

キャプテンとしての公平さ  
精一杯努力して浩二や雄一郎、1年生たちはどう思うだろう？

結果を残すというキャプテンの思い  
自分たちに託してくれた先輩たちはどう思うだろうか？

円満解決の方法はないのかなあ。

「茂」の抱える葛藤構造

解決の是非ではなく、自分の生き方の問題だ。

共にやってきた正夫への友情・信頼  
茂が言ったら正夫はどう思うだろう？  
自分が逆の立場だったらどうだろう？

自らのより善い生き方の希求  
自分は何のために、誰のためにキャプテンの責務を果たすのか？

見えている部分からよく見えていない本質の部分を見抜く

5

「子供は誰も語る言葉をもっている。その子供達が語らなくなるのは、自分の内なる心の発露としての発言が教師のフィルターを通すと急に色褪せてしまうことを知っているからだ。」ある中学校教師のつぶやき

道徳科で目指すアクティブ&ディープな道徳的学び  
 「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を道徳科で実現するための「道徳学びのプロセス」  
 (課題設定⇒共通解の導き⇒納得解の紡ぎというプロセススキル)

- 道徳授業で大切なのは、他者対話と同時に展開される自己内対話である。それを実現するためには、

①課題意識の明確化→②セルフワーク(自己省察)→③ペア・ワーク(他者との協働による課題の明瞭化)→④グループ・ワーク(協働的・対話的学び)→⑤クラス・ディスカッション(協働による共通解の追求:道徳的価値の自覚)→⑥セルフワーク(納得解としての自己展望)といった、授業での横方向への広がり縦方向での一貫性を実現していくことが何よりも大切である!!

6

### 「特別の教科 道徳」という枠組みで授業改革を考える

#### 教科教育型の道徳科授業改革の視点

◆主題のねらいに至るプロセスで教科固有の資質(スキル)を身に付けさせる。(プロセススキル形成型授業展開)

☆従前の道徳授業硬直化における問題点

◆道徳は主題のねらいにダイレクトに猛進する授業展開が主流で、場面毎に登場人物の心情を問う「各駅停車型」では授業が硬直化し、ねらいに十分追れないという批判も受けてきた。

しかし、教師は日常的な教科教育型のプロセススキル形成を経て目標(めあて)に到達する指導の方がやりやすい。

ならば、授業改革の視点として、

スタートフリー、ゴールフリーの方向的目標設定を前提とする「特別の教科」という特質はそのままに、道徳的能力を高めながら道徳性という資質形成に導く教科教育型道徳科授業に発想転換すれば？

### 教科教育型道徳科授業の基本フレームを考える

アクティブ&ディープ・ラーニング・プロセススキルの形成

[学習テーマを理解する] ←①学びを方向付ける

↓ ★課題を知り、関与するためのスキル

[追求する学習課題を設定する] ←②深化の課題をもつ

↓ ★共通課題へとつなげるためのスキル

[教材での学びから共通解を導き出す] ←③価値の多面的理解

↓ ★多様に課題追求して共通項を見出すためのスキル

[共通解を基に個別な納得解を紡ぎ出す] ←④個の価値観創造

↓ ★自らの道徳的問題として体現するためのスキル

[納得解実践化への新たな課題をもつ] ←⑤実践イメージの喚起

★望ましさを生活に敷衍し、継続していくためのスキル

**道徳科における教科教育型授業づくりの考え方**

**(step1)** ← 《学習課題を明確にし、学習への見通しをもつ》

接業儀マの提示 例：他者への思いやりや親切について考えよう

奏通學儀課題の設定 例：もっと人に優しくするためにはどうしたらよいのだろう。

**(step2)** ← 《教材で道徳的追体験をしながら共通解を導く》

♥ 共通解の追求：道徳的価値の意義や実現することの有意義性を深く理解

価値内容についての理解 例：思いやりある判断とは？なぜそうするのか？

翻種業儀についての理解 例：実践する意味は？それで何が変わるのか？

**(step3)** ← 《共通解を基に個別な納得解を紡ぎ出す》

♥ 納得解の紡ぎ：道徳的価値の理解に基づく自らの価値観としての意思決定

翻種業儀へ向けての見通しや決意 例：自分はどのように価値を実現するのか？

**(step4)** ← 《納得解実践化に向けた新たな道徳的課題をもつ》

自種業儀への課題創出 例：価値実現への情報収集から実践の見通しをもとう。

9 | 国学院大学

